

飯野コミュニティセンター 市長と語る会

日 時：令和7年8月24日（日） 午前10時00分～11時40分

場 所：飯野コミュニティセンター 参加者：20名

市出席者：市長、地域担当職員【大西（農業委員会）、真鍋（農林水産課）】、秘書課【塩田】

1. あいさつ

（会長）

皆さん、本日はご出席いただきありがとうございます。市長はとても親しみやすいので、今日は忌憚のないご意見をどんどんお聞かせいただき、飯野町や丸亀市のより良い未来のために、皆さんと一緒に考えていきたいと思う。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

（所長）

それでは、丸亀市長よりご挨拶をお願いします。

（市長）

おはようございます。私事であるが、この春から2期目の任期に入り、今後4年間、引き続き市政に取り組むこととなった。これも皆さんのご支援のおかげである。

飯野コミュニティの皆さんには、日頃から丸亀市の取り組みにご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。横田議員にも大変お世話になっている。

飯野地区は昔から団結力が強く、模範となる素晴らしいコミュニティだと感じている。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本日は約90分間の意見交換の時間となる。遠慮なく、率直なご意見をお聞かせいただければ幸いです。

2. 意見交換

（所長）

市長は次の公務のため、限られた時間となることをご了承ください。事前にお渡しした質問票に沿って進めていく。

まず1番目の質問、小学校や子ども園の運動場は、休み中は原則使用禁止となっている。誰もがいつでも集まって遊べる公園が必要だと考えているが、市としてそのような考えはあるか。

（市長）

私は市長に就任する前から、公園の整備を進めたいと考えていた。市全体でバランスよく身近な公園を配置することを目指している。

現在は、各コミュニティが管理する形の公園が理想だと考えており、実際にいくつかの地域で整備が進んでいる。

例えば、飯山南コミュニティでは国道 438 号線の整備と連動して、公園が完成した。また、郡家コミュニティや城南コミュニティでも進んでおり土地の確保が出来てから、2 年程で整備を進める予定である。

ボートレース場では、子ども向けの遊び場が整備されており、非常に好評いただいている。休日には予約制になるほどの人気である。蓬莱町の海浜公園も整備計画が進行中で、改善を目指している。

公園整備には用地取得や施設整備など多くの予算が必要になる。飯野町には児童遊園と野外活動センターの 2 つの都市公園があり、バランスを考えると、現時点では新たな公園整備予定はない。しかしこういう要望をされましたら、住民の憩いの場や交流の場はまちづくりに必要で、生活環境の質を上げると考えられるので、市全体でのバランスを考慮しながら地域公園の整備は順次計画的に進めていこうと考えているところである。

現在整備している地域の公園は、面積が約 2,500~3,000 m²を目安としている。維持管理は、コミュニティ、地元の団体に草刈りや清掃などの日常管理を行うことを条件としており、設置場所はコミュニティセンターと一体的に活用できる場所を基本としている。地域住民の利便性や様々な意見を踏まえ、条件など協議の上、コミュニティが中心となって決定していただければと思っている。

元々市にもたくさん公園があるが、禁止事項が多すぎて使われなくなる傾向がある。市が管理すると周囲の地域住民からの苦情対応で禁止事項が増えがちであるが、コミュニティが管理することで柔軟な運用が可能になる。例えば、花火やバーベキューを条件付きで許可するなど、地域の実情に合わせた対応ができる。

(会長)

公園にはいろんな機能があると思う。都会では公園が多いが、震災の時に避難所として活用されており、ベンチも防災対応型になっている。飯野地区でも、小学校の体育館やコミュニティセンターなどの避難所から溢れた人も避難できる、災害時に活用できる公園を整備してほしい。

(市長)

防災機能を持つ、避難所となるような公園というのは、公園をコミュニティが管理する形なので、作る時に市の担当部署に意見をいただきながら進めていくこととなる。

(男性 1)

市長は、「飯野には野外活動センターと児童遊園がある」とおっしゃっていたが、私たち町民が利用する価値があるか考えていただきたい。

コミュニティ主体で管理する公園ということであれば、やはり小学校やコミュニティセンターの近くに、そういった場所を確保する必要があると思う。例えば、3000 平米ほどの土地を市で確保していただき、池の裏側などのあたりが公園になれば非常に良いと思う。

町の中心に位置する場所であるので、南からも北からもアクセスしやすく、高齢者や就学前の子どもを連れた保護者の方々も歩いて来られるような、そんな公園が必要だという声を聞いている。

ぜひ、飯野町としても手を挙げて、他に続いて検討していただければ、町民にとって非常に利用価値のある施設になると思うので、よろしく願います。

(市長)

1点、私が先ほど言い忘れていたことがある。

栗熊コミュニティからも公園整備の要望がある。また、川西コミュニティからも「公園を作ってほしい」という声があった。川西には土器川運動公園があると説明はしたが、それでも要望は出ている。

先ほど話した「飯野児童遊園」があると担当課から聞いたが、私も子供の時から飯野によく遊びに来ていたが、どこにあるのか知らなかった。屯所の横か？

(男性 2)

さくらこども園の隣。狭くて駐車場もない。地区の子供たちはたまに行っている。もともとあの場所は板屋地区の神事場。祭りのときに獅子の御下がりとして使っていたので、板屋地区が管理するという条件で児童遊園という名称となった。

(市長)

私もコミュニティセンターや小学校の近くに公園を整備することは非常に良いことだと思う。飯野地区からも正式な要望があったということで、ぜひ会長から文書で提出していただければ、担当課にも記録として残っていく。

ただし、現在すでに多くの地域から公園整備の要望が出ており、すぐに全て対応できるかどうかは予算の都合もあるので、そこはご理解いただければと思う。それでも、地域の皆さんが活発に活動してくださっていることは非常にありがたく、近くに公園があると良いという声には私も共感している。

1つだけ補足すると、郡家地区では、もともと小学校やコミュニティセンターのすぐ近くに候補地があったが、田んぼの所有者が売却に応じてくださらず、少し離れた場所になってしまったという経緯がある。このように、土地の選定には地域の事情もあるので、地域の方々と協力しながら、適切な場所を選んでいただければと思う。

(所長)

2つ目の質問、自治会の加入率が年々減少しており、新しい住民による自治会の立ち上げも難しくなっている。今こそ、新しい自治会のあり方を考えるべきではないか。自治会の加入促進や、自治会がある地区とない地区の差別化などについて、市長のお考えをお聞かせください。

(市長)

自治会の加入率については、現実として毎年減少している。私の地元である川西コミュニティでは、7~8年前から「コミュニティ自治会」という形で、活動はしなくてもいいので、まずはコミュニティ自治会に加入してほしいという取り組みを始めた。年間で3,000円という会費で、加入を促進している。

しかし、自治会の減少にはいくつかの要因があって、特に開発が進んでいる川西南部地域では、新しく建てられた住宅の多くが自治会に加入していない。また、私の自治会でも、以前は50以上あった自治会が現在は40ほどに減少していった。他の自治会でも同様と聞いている。これは、主に高齢者の方が「何もできないから迷惑をかけたくない」と脱退されるケースが多い。

対策として、丸亀市では「自治会加入推進委員」を設置し、加入促進や新規結成の支援を行っているが、効果は限定的である。その他の対策として、私が市長になってからは、2年前から1世帯あた

り 300 円だった自治会費育成補助金を 600 円に倍増した。それにより加入が増えたということではないが、活動費が倍になったということは確かである。また、同時期に自治会長の負担軽減のため、自治会長手当を 1.5～1.8 倍に増額した。

そのほか、防犯灯については自治会からの要望がなければ設置できない仕組みにしており、電気代も自治会の申請に基づいて市が補助している。

これらの施策を通じて、自治会の活動支援は行っているが、加入率の改善には至っていないのが現状である。今後も必要に応じて柔軟に対応していきたいと考えている。

皆さんからも「こうすれば加入が増えるのでは？」というご意見があれば、ぜひお聞かせください。

(男性 3)

市長がおっしゃったように、高齢化による自治会の減少は確かにある。ただ、他の自治体では対策を講じて加入率が改善した例もある。丸亀市では、そういった自治体への視察を行っているのか。

(市長)

視察については聞いていないので行ってないと思う。行くべきだと思っている。

(男性 3)

丸亀市の人口が増えるように、先進地を参考にさせていただきたい。

(市長)

香川県内の人口動向を見ると、宇多津町は横ばい、丸亀市と高松市は微減、それ以外の市町は大きく減少していた。宇多津町も最近では減少傾向に入り、これからは丸亀高松も減っていくという予測である。

丸亀市の微減については、近隣の市町から若い世代が移住してくるケースが増えている。これは、丸亀市が子育て支援に力を入れていることが理由の一つである。

具体的には、給食費の完全無償化と 18 歳までの医療費の全額補助。その他の子育て支援施策が、若い世代の移住を後押ししていると考えている。

ただし、出生数は減少傾向にあり、現在は年間 700 人台。死亡者数は年間 1,200～1,500 人ほどで、自然減だけでも年間 700～900 人の人口減少が発生している。引っ越してくる方々のおかげで、現在は「微減」にとどまっているが、今後も人口減少対策には力を入れていきたいと思う。

(所長)

3 つ目の質問、子育て支援の一環として、0 歳児から 2 歳児の保育料を無償化、もしくは半額程度の補助制度を設けることはできないか。

(市長)

これは本当に実現できれば素晴らしいことだと、私自身も強く思っている。

ただ、現状について少し説明させていただく。丸亀市では、毎年 4 月の時点で待機児童ゼロを達成している。今年も 4 月にはゼロであった。しかし、その後、転入などで途中から保育を希望される方が増え、年度末には 100 人以上の待機児童が発生してしまうのが現状である。この待機児童の問題に、今市として全力で取り組んでいる。

原因の一つは、保育士の不足。募集しても必要な人数が集まらず、さらに毎年 1 月になると、若い

保育士が10人前後退職される傾向がある。理由は家庭の事情など様々であるが、私の推測では、仕事の厳しさが背景にあるのではないかと思っている。

本来なら12月頃には翌年度の人員計画を立てるが、その後に退職が出るため、担当課は2～3月にかけて非常に忙しくなる。現在、担当課では保育士確保のため香川短期大学などに出向き、卒業予定者に丸亀市で保育士として働いてもらえるよう積極的に働きかけている。

まずは待機児童の解消が最優先であるので、その目途が立った段階で、0～2歳児の保育料無償化や補助制度の導入を目指したいと考えている。無償化を実施すれば、保育希望者がさらに増えることが予想されるが、受け入れ体制が整っていないと対応できないので、保育士の確保が前提となる。

(男性4)

具体的に「何年後までに実現する」といった目標設定が必要ではないか。ただ「目指す」と言うだけでなく、時期を明確にして取り組んでいただきたい。

(市長)

これは「数年後に目指す」という話ではなく、すでに目の前の課題として担当課と市全体で取り組んでいる。年度途中、特に後半では保育所に預けられず、仕事に行けないという保護者が100人以上いる状況であるので、今すぐにも待機児童の解消のため取り組むが、保育士が不足しているのが現状である。

(男性4)

保育士の確保には待遇改善が必要である。丸亀市の給与を上げて、人材を呼び込むべきではないか。

(市長)

私も市長として、保育士の待遇改善には力を入れてきた。丸亀市は近隣市町と比べても、保育士の給与水準は高い方である。国の手当に加えて、市独自の上乘せも行っている。

さらに、学生時代から奨学金制度を設け、丸亀市で保育士として3年以上働いてくれば、返済不要とする制度も導入しており、何人かの方が利用されている。ただ、私の個人的な考えでは、保育士の離職の原因は「給与」だけではなく、「職場環境」や「業務の厳しさ」にあると思っている。

丸亀市の保育は昔から質が高く、誇りを持って取り組んできた。公立保育所が多く、保育内容も非常に丁寧。例えば、保育士が毎日記録する保育日誌なども非常に細かく、また、保護者対応も含めて、保育士に求められるものが多いことは、若い人にとっては負担が大きいのかもしれない。市としても、保育行政のあり方を見直し、もう少し改善しようと検討しているところである。たくさんの人が応募してくれることを目指すところである。

(女性1)

市長は子育て支援や待機児童対策、保育士確保や学校教育に力を入れて取り組まれていると感じている。特に「子育てしやすいまちづくり」を掲げているが、願いがある。

飯野こども園は市内でも非常に人気があり、地元の園に入りたいという希望があっても、入園できないケースが多くある。兄弟で同じ園に通わせたいという声もよく聞くので、考えていただきたい。

また、先生方の業務負担は、事務サポートの導入などで軽減されてきているようであるが、子どもが怪我をしたり熱を出したりした際の対応については、まだ課題があるように感じる。小学校のよう

に養護教諭のような存在を、子ども園などにも配置できないかと考えている。

(市長)

飯野こども園は非常に人気があり、地元の園に入りたいという希望があっても、入れないケースが現実に起きている。兄弟で別々の園に通うことになってしまう事例もあり、これは本当に心苦しいことである。

このような状況が起こる背景には、待機児童が増えたことや、国が女性の社会進出を推進して10数年になるが、保育の必要性が高まったことで、保育園やこども園の利用希望者が増加した。

現在、丸亀市ではAIを活用して入園の割り振りを行っている。以前は人の手で調整していたため、柔軟な対応が可能であったが、AIによる割り振りでは、兄弟同園や地元優先と条件を入れても反映されにくくなっているのが現状である。実際、希望通りにならなかったという話も聞いており、融通が利かない仕組みになってしまっていることは課題だと認識している。

また、保育行政の担当課は非常に業務量が多く、職員の負担も大きくなっている。申込受付が始まる秋から年度末にかけては、特に忙しく、職員の精神的負担も大きい状況である。人員は増やしているが、それでも追いつかないのが現実である。それでも、こうした課題を少しでも早く改善するために、市としても取り組んでいく。

それと、養護教諭のような存在をこども園に配置することは、保育士の負担軽減にもつながり、保護者の安心感も高まる。この点については、国や県にも要望を出しながら、全体的な取り組み若しくは一部の丸亀市独自の取り組みとして検討していきたいと考えている。

ただ、人手不足という問題や人件費としての予算確保も必要である。丸亀市では、教育や子育てに関する予算を積極的に投入しており、今年度は、学校やこども園の施設整備に約180億円を投入しており、これは過去に例のない規模である。物価高騰で資材についても以前に比べ倍以上になっている。

今後も、AIによる割り振りの課題や人員不足の問題に向き合いながら、子育て支援の充実に取り組んでまいらる。

(所長)

時間が限られているので、簡単明瞭に答えていただきたくことでお願いする。

4つ目の質問、ごみステーションの設置について。「概ね10世帯以上の利用を基準とする」とされているが、小規模な世帯数では設置できないのか。また、宅地造成の事情で設置が難しい場合の基準について教えていただきたい。

(市長)

ごみステーションの設置にあたっては、基本的に「概ね10世帯以上の利用」を目安としている。ただし、10世帯に満たない小規模な宅地造成であっても、近隣と同様の事情でごみ出しに困っている世帯がある場合は、柔軟に対応している。

具体的には、5世帯以下の場合でも、可燃ごみ・不燃ごみの回収は可能である。ただし、資源ごみについては、近隣のステーションに持ち込んでいただくか、クリーンセンター丸亀へ直接持参していただくことになる。資源ごみの回収は、どうしても融通が利きにくい部分である。

まずはクリーン課に相談していただくのが一番の解決策である。丸亀市のクリーン課は非常に親身

に対応してくれており、例えば高齢者の一人暮らしなど、どうしてもごみ出しが困難な場合には、個別に回収に行っているケースもある。ただ、すべての世帯に対応するのは難しいことであり、本当に困っている方の実情を聞き、柔軟に対応しているというのが現状である。

(男性 4)

ごみステーションの設置は自治会との関係も深いと思う。自治会に加入している世帯は、20 世帯や 15 世帯で 1 か所のステーションを共有しているが、自治会に入っていない世帯が 2~3 世帯で出しているケースもある。

その結果、自治会に加入している人は遠くまでごみを出しに行っているのに、加入していない人は自宅のすぐ前に出しているという不公平が生じている。こうした状況を改善するためにも、自治会に加入していない世帯には、近隣の自治会に頼むように、市からも指導していただきたいと思う。

(市長)

まさにご指摘の通りだと思う。市に最初に問い合わせがあった際には、今お話しいただいたような内容を基本的な方針としてお伝えしている。

ただ、クリーン課の職員は非常に柔軟に対応してくれているため、現場では融通が利いてしまうこともある。自治会に加入していない世帯の設置についての指導はしていきたいと思う。

(所長)

5 つ目の質問、自治会で防災用品を備えたいという声がある。現在、コミュニティセンターには市から防災用品の配布や補助があるが、自治会単位に補助金はあるのか。住民の間で、「防災・災害時の対応が不安」というアンケート結果が出ている。

(市長)

防災用品の備えについては非常に重要な課題であり、能登で発生した地震災害の現場支援に半年間毎日 3 人携わった経験から、その必要性を強く感じている。現地での教訓を活かし、丸亀市でも防災対策を進めているところである。

現在のところ、自治会単位での防災用品購入に対する新たな補助制度の創設予定はない。その代わりに、市としては、物資配布の支援拠点の充実を進めて、自治会の不安解消につながればと考えている。この支援拠点とは、各コミュニティセンターや小学校体育館などの指定避難所である。

南海トラフ地震などの大規模災害が発生した場合、初期段階では自治会単位での避難も想定されるが、長期的には広い避難所に集約されることが想定されている。そのため、市としては支援拠点に防災用品を集中して整備する方針である。

今年度の予算でも、防災用品の整備に力を入れている。具体的にはワンタッチトイレ。これを増やすようにしている。使用後に袋ごと密封でき、衛生的に処理できる簡易トイレである。また、衛生管理の観点からお風呂の導入を進めており、配置場所を検討中。そのほか従来の段ボールベッドよりも軽量で組み立てやすいスチール製の簡易ベッドは、耐久性も高いため、順次切り替えを進めている。

自治会の方にとということであるが、まずは備品の充実を進めていくこととしている。

(所長)

最後 6 つ目の質問、小学校のプール事業が、今後スイミングスクールに移行していくと聞いている。

そうすると、学校のプールは使われなくなる。管理方法も含めて地元開放は考えていないのか。

(市長)

現在は学校の建て替えなどの事情で、プールが使えないケースがあり、昨年度は近隣のスイミングスクールを利用して水泳学習を行った学校もある。そうした背景から、今回のご質問が出たのだと思う。ただ、丸亀市内のスイミングスクールは数が限られており、市内すべての学校の水泳授業をまかなうことは物理的に不可能である。

教育委員会では、時代の流れに合わせてスイミングスクールでの水泳指導も選択肢の一つとして考えているようであるが、私は学校にプールを設置し、そこで水泳を教えることが非常に重要だと考えている。

丸亀市は瀬戸内海に面しており、水に親しむ機会が多い地域である。だからこそ、子どもたちが学校で水泳を学ぶことは、地域性を踏まえても大切な教育の一環だと思っている。教育委員会にも私の考えはすでに伝えており、今後も学校にプールを設置し、水泳教育を継続していく方向で進めていきたいと考えている。

(所長)

質問票に無い、お願いや要望がありましたら挙手をお願いします。

(男性 5)

私の自治会の中に、精神障害 2 級の無職の 30 代男性がいるが、今年 4 月に母親が亡くなり、現在は一人で暮らしている。7 月末頃、近隣の住民から「電気もエアコンも使っていないようで、裸で外にいる」との苦情が寄せられた。本人に話を聞くと、障害者の手当をもらっているがなくなった。生活が困窮している。今までは、リサイクル品を売って生活していたが、それも限界にきており、エアコンを使う余裕もないという状況であった。その後、食料も底をつき、近隣住民にお金を貸してほしいと言っており、再度苦情が寄せられた。

私が社会福祉課に連絡したら、「担当ではない」と言われたが、何か起きてからでは遅いので本人に会って対応してほしいと相談すると、本人を知っているとのことだったので、民生委員にも連絡をし、訪問するよう依頼をした。早急な対応を依頼したが、「なにか事件があれば警察に」ということであった。

しかし、1 週間経っても民生委員にも連絡してらず、本人も「誰も来ていない」と言っていた。近隣住民も心配しており、本人の精神状態や周囲の状況は悪化していた。民生委員に市役所に連れてってもらい、ようやく最近になって市役所が動き始めたが、対応が遅すぎると感じている。

市の職員には、こうしたケースに対して迅速に対応していただきたいと思う。何かあってからでは遅いので、ご指導よろしく申し上げます。

(女性 2)

今は社会福祉協議会と民生委員に対応していただいている。

(市長)

申し訳ありません。今のお話を聞いて、私も非常に重く受け止めている。しっかりと指導する。

こうしたケースに対応するために、国の制度として「重層的支援体制整備事業」が今年の春から本

格的に始まった。これは、福祉・医療・生活支援など、複数の分野が連携して、たらい回しにならないように支援する仕組みである。

私でも、たらい回しにされた経験がある。市民の皆さんが同じような思いをされていることを考えると、これは職員一人ひとりの「意識の問題」だと強く感じている。相談を受けた職員が、最後まで責任を持って対応する。専門部署に引き継ぐ際も、きちんと説明し、解決に向けて動く。これが「重層的支援体制」の基本である。

今回の件については、私からも福祉課に直接指導を行い、迅速な対応を求める。地域の皆様、特に自治会長をはじめとする近隣の方々のご尽力には心から感謝している。行政としても、しっかりと連携し、支援体制を整えていく。

(男性 6)

ただ、やはり役所の職員の方々には、「自分の部署ではないから関係ない」といった感覚が根強くあるように感じる。市長が「それを変えていく」と明言してくださったことは非常に心強く、感謝している。現場の職員一人ひとりにもその意識が浸透し、住民の声に寄り添えるような組織になってほしいと思う。ぜひその方針で、今後も進めていただきたい。

(市長)

職員の意識改革については、私自身が市長になってからずっと言い続けてきた。確かに、職員の中には「自分の部署ではないから」と他部署に任せてしまう傾向があるのも事実であり、これを変えていくことが、今の行政にとって非常に重要だと考えている。

一方で、職員の業務量も非常に増えているのが現状である。例えば、丸亀市の予算は、私が市長になってから毎年過去最高を更新しており、今年度は約 780 億円に達している。これは、ボートレースからの繰り入れが 90 億円、最近では税収の増加が約 10 億円あるおかげだが、本来の丸亀市の予算規模は 500 億である。過去最高の予算が続いているが、予算が増えればその分、事業も増え、職員の仕事量も膨大になり、日々多忙な業務に取り組んでいる。

それでも、「重層的支援体制」の導入により、部署間の連携を強化し、「たらい回し」をなくす仕組みを整えていくので、よろしくお願いします。

(男性 7)

私の家は農協の倉庫の東側に位置しているが、隣近所で最近、鳩によるフン害がひどく、毎朝起きると屋根の上に 10 羽くらいが連なって鳩で埋め尽くされているような状態である。屋根や納屋の上にフンが落ちていて、毎日気分が悪くなる。

これは私の家だけでなく、周辺でも被害が出ており、周辺も迷惑している。何か良い対策や知恵をお借りできればと思い、相談させていただいた。市の方で駆除ができるか？

(市長)

フン害は本当に深刻な生活環境の問題である。駆除できるかということについては、その方法によっては苦情に繋がる場合もある。直ぐに担当部署に話をし、連絡を取らせていただく。

(所長)

本日の内容や質問については文書で回答いただけるということの理解でよろしいか。

(秘書課)

はい。

(所長)

回答があれば広報でお知らせするか本日の出席者にお渡しする。他に質問はないか。

(男性 2)

回答は不要である。最近、単純労働者やインバウンドの影響で、外国人の方が日本に増えてきている。SNS などでも話題になっているが、交通事故の例などを見ると、日本では国際免許で運転できることが原因で、事故を起こしてもすぐに帰国してしまうケースもある。北海道では、時速 194 キロでの事故があったという話も聞いた。丸亀市でそうしたことが起こるとは思っていないが、将来的には可能性があると思う。

不動産の問題も含めて、外国人による土地取得などが進んでいるようで、社会全体が変わってきていると感じる。

こうした変化に対して、行政がどのように分析し、対応していくのが心配である。子どもたちが大人になる頃には、今とは違う社会になっているかもしれない。

(市長)

今の意見は、私自身も非常に心配としていることである。丸亀市の現状を説明すると、この 4 月時点で約 3,000 人の外国人住民が暮らしており、私が市長に就任した 4 年前は約 2,000 人であったので、急速に増えている状況である。しかし本市は外国人住民とうまくいっていると感じている。

その理由としては、外国人の子どもたちへの日本語教育を、城乾小学校と丸亀東中学校で 20 年以上に渡って行っており、中学卒業後の高校進学率が 3 年連続で 100%を達成している。これは、先生方の熱心な指導と、国際交流協会の取り組みによる成果である。

ただし、今後さらに外国人住民が増えることを考えると、他県でおこるような交通事故や不動産取得などの問題も想定しておく必要がある。

交通に関しては、警察と連携しながら、国際免許による運転のリスクにも対応していくことと、不動産については、外国人が一定規模以上の土地を取得する場合、県への届け出が義務付けられており、地方自治体としてもその用途や影響を精査している。今後さらに情報収集と対応強化が必要だと考えている。

(男性 2)

今年、飯野小学校の運動会は 5 月 24 日に予定されていたが、雨で延期となり、翌日の 25 日に開催された。この地域は井出さらいを日曜日に行うので、運動会が日曜日に開催されると、若い働き手が参加できず、年配者ばかりが担うことになる。できれば、延期の場合は翌日ではなく、次の土曜日などに変更できないか。

(市長)

この件については、率直に申し上げると、運動会の日程は基本的に学校の校長先生と PTA の皆さんで決定されている事項である。市としては、教育委員会に意見を伝えることはできるが、直接的に日程を変更する権限はない。

(男性 2)

学校側も年間の行事予定が詰まっているため、延期日を柔軟に変更するのは難しいと聞いている。ただ、私達の自治会では「参加できなかつたら罰金がある」といった例もあり、市に聞いてみることにした。

(市長)

繰り返しにはなるが、校長と PTA とで決めていることであるが、地域の皆さんからこうした声が上がっていることはしっかりと報告はさせていただく。

(女性 3)

私の近所に空き家がある。そこは、以前住んでいたお母さんが亡くなり、長男夫婦が住んでいたが、長男も亡くなり、次男は相続を放棄しているので、現在は誰も住んでいない。

空き家の敷地には草が生い茂り、竹も伸びてきている。私も近所なので時々手入れしていたが、夫に「ずっとやることになる」と言われたので、やめた。竹はどんどん伸びて、西隣の家にも侵入してきており、家屋もかなり傷んできている。

草が伸びてきて通学路まで覆いかぶさり子供たちが道の真ん中を歩かざるを得ない危険な状況のためここ 2 年ほどは私が刈り取って、でてこなくなった。

もし市役所に相談すれば、所有者に対して草木の選定や片付けを促してもらえるのか。

(市長)

空き家に関する問題は、現在非常に多く寄せられており、市としても重要な課題と認識している。市では、空き家の所有者に対して草木の管理や片付けの指導を行っている。

ただし、実際には指導しても対応してもらえないケースも多く、非常に難しい状況である。これまでに、特に危険な状態の空き家については、市が税金を使って代執行（強制撤去）を行った事例が 2 件ある。

今回のように、草や竹が伸びて通学路にまで影響を及ぼしている場合は、特に注意が必要である。まずは、空き家の所在地や状況を市の担当課にご連絡いただければ、所有者への指導や必要な対応を行う。

地域の皆さんが自主的に手入れをされていることも非常にありがたく感謝申し上げますが、継続的な負担になるのは本来望ましくない。

(会長)

先ほど時間の都合で話が止まったが、2 番の自治会加入に関する件について、改めて意見を述べさせていただきます。

私は他の自治会長とも話をする機会があるが、自治会に加入した場合に、実際に大きくお金がかかる。自治会費やお祭りなどの行事費用など。祭りの費用などは「自分たちが楽しむためのものだから当然」という考え方もあるが、それ以外にも赤い羽根募金など、寄付の負担もある。

ある自治会長から「寄付自体はやぶさかではないが、自治会に入れば目に見える特典を示していただきたい」と言われた。例えば、九州の大分では、自治会に加入すると米が配られたという話も聞いたことがある。

例えば市として「自治会に加入すれば市民税が少し安くなる」といった、他の人が、自分も入ろうという気持ちになるようなことをして欲しい。現状では、市役所が何でもやってくれるので、自治会に入らなくても困ることがないため、加入しない人が多いのが現実である。

ごみステーションの件もそうであるが、自治会に入らなくても利用できる仕組みになっているため、加入の必要性が感じられない。自治会に入ることによって「何か得られるものがある」と思えるような仕組みづくりを、ぜひお願いしたい。

(市長)

率直なご意見、非常にありがたく受け止めています。本音を言うと、私もそうしたい。

ただ、現実としては、自治会に加入することで特典を与えるような制度は、法律上の制約があり、大々的に打ち出すことが難しいというのが現状である。「自治会に入っていない人にはサービスを提供しない」といったことは、行政としてはできない。

また、皆さんから「こんな仕組みがあれば加入したい」という具体的なアイデアがあれば、ぜひ教えていただきたい。

(所長)

少しだけ時間をいただいて、市にお願いしたいことがある。

市役所の1階では受付で番号札をもらって順番に呼ばれるので、スムーズに手続きができる。しかし、2階以上の課に行くと、職員の方が奥で仕事をしていて、声をかけてもなかなか気づいてもらえない。こちらから声をかけないと対応してもらえないことが多く、まるで無視されているような印象を受けることもある。また、異動などで職員の人数が変わると、受付に近い席が空いてしまい、ますます声をかけづらくなる。

市民が気軽に声をかけられるような雰囲気づくりが大切だと思う。職員の方が笑顔で「どうされましたか？」と声をかけてくれるだけで、市民は安心して相談できる。ぜひ、窓口の配置や職員の接遇について改善をお願いしたいと思う。

(市長)

私も以前、沖縄で研修を受けた際に、施設の職員の方がすぐに出てきて「何かお困りですか？」と声をかけてくれたことがあり、とても嬉しく感じた経験がある。そうした温かい対応が市民にとって大きな安心につながることは、私自身も実感している。

(所長)

以上で、市長と語る会を終わりたいと思う。今日はお忙しい中、ご参加いただいたことに感謝申し上げますとともに、今後とも、ご協力をよろしくお願いする。